

## Y14a 二年目となる宇宙天気インタプリタ育成カリキュラム開発の状況

野澤恵、高城有生(茨城大学)、玉置晋(茨城大学/ABLlab)、カリキュラム開発チーム

本年5月に太陽活動が激しくなり、大規模太陽爆発であるXクラスフレアが何回も発生した。5月11日夜に日本各地で赤いオーロラの複数の確認報告があった。このように太陽活動の諸現象や電離圏や磁気圏などが地球に与えることを宇宙天気と呼ばれる。宇宙天気を与える被害に対して、社会的影響範囲の広さから宇宙天気の専門家では社会システム全てに必ず対応することは難しい。宇宙天気に対応するためにはそれぞれの業界の専門家がリスク対応を正しく行う必要がある。そこで、今後様々な業界に就職し社会の中心となっていく学生に焦点をあて宇宙天気の教育を行う。このような教育プログラムが広まり学生のうちから宇宙天気に触れることで、宇宙天気リスクを評価し、対応する宇宙天気インタプリタの育成を促すことができると考える。

その実践として、昨年度の前期にオンラインで宇宙天気を学びたい大学生を中心にあつめ、ゼミ講義形式で開催した。社会人も多く、一般的な内容から一歩踏み込む必要がわかった。後期には宇宙天気を研究テーマとした先鋭化した学生中心のグループと、気象キャスター向けの宇宙天気予報士の取得を目指すグループの棲み分けを行ない、並行した講義となった。結果学生を中心とした先鋭化したグループは限定された内容が中心となり、育成プログラムの維持が難しくなった。一方、気象キャスター向けの宇宙天気予報士を目指すグループは、目的が明確だったため受講者には評価も高く継続が望まれ、今年度も引き続き講義を行なっている。一方の大学生中心のグループは内容の見直しにより、宇宙天気を広めるため、初等者向けの資料を作ることを目指すこととなった。分かりやすくかみ砕いてはあるが、正しく宇宙天気を怖がるための内容とした。本講演では、昨年度のまとめと今年度前期の評価などの報告も行なう。